



「予測困難な時代に必要なことは…」

学校長 小倉 睦

蒸し暑い季節になりました。7月の別名は、文月（ふみづき）といえます。学習に関係ある月ということもありますが、長期休業前のまとめをしっかり行っていきたいと思えます。

さて、6月中旬より水泳学習が始まりました。雨空を避けて、何とか水泳学習を行うことができるよう、各学年、空とにらめっこが続いています。日本には、どこの学校にもプールがあり、水泳の授業があります。でもそれは世界では珍しいことで、アメリカや韓国、中国等の国々には、小学校や中学校にプールがなく、水泳の授業もない学校が多いそうです。このことはプール開きの朝会で子どもたちに話したことです。日本はとても水泳学習の環境に恵まれているので、がんばって水泳学習をしようと呼びかけました。

水泳学習が始まるにあたっては、児童一人ひとりが今年のめあてをもって取り組むことが大切です。水泳上達のためには、まず、水に慣れて楽しむことです。「水泳が好き。」とか「水泳って楽しいな。」と思って練習することが、上手になる一番の早道です。「プールの半分は泳ぎたい。」「25m泳げるようになる。」「50mのタイムを縮める。」など、自分にあつめあてを決めてほしいです。

水泳学習の準備としてプール清掃がありました。最近では働き方改革のために、業者へプール掃除を依頼する学校もあります。本校では今年、プール掃除の補助ボランティアを募集しました。急遽の募集にもかかわらず、2人のボランティアの方に来ていただき、プールがピカピカになりました。子どもたちのためにという気持ちで、一生懸命に作業して下さったことに頭が下がりました。

この他にも、今年度からスタートした学習補助ボランティアの方が、2年生算数のものさしの使い方、3年生のまち探検、5、6年図工の糸のこ作業などの補助に入ってくれています。子どもたちの理解がスムーズにいくように、また

より安全に学習が展開できるようにと様々な支援のお手伝いをしてくれています。今後も教職員と保護者・地域ボランティアの方が連携を図りながら、子どもたちへのよりよい支援を模索してまいります。

ところで、先日東京の筑波大学付属小学校の研究発表会に参加してきました。【「きめる」学び】を研究テーマに掲げ、新しい学習の在り方を参観者に発信していました。体育の授業の中でも、子ども同士の生き生きとしたやり取りが見られました。特にできるようになるための活動では、やり方を決めたり、取り組みを振り返ったりなど、友達とかかわりながら、試行錯誤しながらグループごとに解決していく姿が見られました。子どもたちは、自分が決めたことに最初から自信をもっているわけではなく、むしろ不安や疑問を抱え、思い悩みながら臨んでいることが多く、教師や周りの友達がかかわることで、対話が生まれ、自信をもって取り組めるようになることが明らかになりました。このことは、2020年からの新学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」の具体的な姿にもつながるものととらえることができました。

これからの予測困難な時代には、これまで以上に子ども自身が何をしたいのかをはっきりさせ、やりたいことを自分で決める主体性が大切になります。さらに自分で決めたこと、活動し始めたことが本当によいことなのかどうかを確認するため、他者とかかわる必要性が高まり、自然と対話が生まれるものと考えます。このように他の人の考えを聞くことは、一人だけで考えるより、よりよいものができるという経験を積んでいくことが大切になります。本校においても、日々の授業や各活動を通して、さらに「自己決定力」を高めると共に、多くの人とかかわる力（コミュニケーション力）を高めることを大切にしていきたいと思えます。今月もよろしく願います。